

留 学 報 告 書

記入日:2018年7月5日

所属学部／研究科・学科／専攻	理工学部 建築学科
留学先国	フランス
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: パリ・デイドロ(パリ第7)大学 現地言語: Université Paris Diderot - Paris 7
留学期間	2017年9月～2018年6月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	文学部 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2018年7月1日
明治大学卒業予定年	2019年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:9月上旬～1月上旬 2 学期:1月下旬～5月上旬 3 学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	26,000人
創立年	1970年

留学費用項目	現地通貨 (Euro)	円	備考
授業料		円	
宿舍費	4150	540000円	
食費	1200	156000円	
図書費	1000	130000円	
学用品費	400	52000円	
教養娯楽費	300	40000円	
被服費	1000	130000円	
医療費		円	
保険費	200	26000円	形態:LMDE
渡航旅費	1800	234000円	
雑費	500	65000円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	10550	1373000円	



渡航関連

渡航経路:空路

渡航費用

チケットの種類	航空券
往路	80,000 円
復路	100,000 円
合計	180,000 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

楽天トラベル

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3)住居を探した方法:

留学先大学からの紹介

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

CROUS という留学先大学から紹介された学生寮に泊まりました。家賃も安く、部屋も基本的な設備が全て整っているで、不便は0といってもよかったです。フランスは日用品の消費税が安かったので、食費などはそれほど高くありませんでした。家賃は、僕は毎月大家さんにカード払いをしていたのですが、一括で支払うこともできます。問題に関しては、隣人とのトラブルだと思います。僕の部屋には、寮の管理のアルバイトをしている人が、スペアキーを使い勝手に部屋に入っていました。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

問題は特になかったので相談したことはありませんでした。相談窓口については、留学生用カウンセラーがいました。その方からは、最初にメールが送られてきます。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

大使館から送られてくる情報を頼りにしていました。盗難については、部屋のお金を隣人に盗まれたのですが、洗濯用にとっておいた小銭だったので何も対処はしませんでした。以降再び部屋のお金が盗まれることはなかったです。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話は現地のプリペイド式の携帯を利用していました。寮の部屋の Wi-Fi の接続はとても良く、全くネット環境に困ったことはありませんでした。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

フランスには街路沿いに様々な銀行のATMがたくさんあります。そのATMを使い、VISA デビットカードで日本の口座から度々お金を引き落としていました。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

フランス語を勉強するための本。現地に行ってみると、自分が日本から持ってきた文法書は、生のフランス語を得るためにはあまりむいていないことがわかりました。成句表現などが整理されて載っている本があればなど、なんども後悔しました。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

卒業後の進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

一年間という期間ではありましたが、人と人の関わり合い、幸せ、人種などに対する価値観が変わりました。社会に出る一歩手前でこれを経験できたことは、社会に出てからの自分の人生を考える上で、かけがえのないことだと考えています。留学は僕には少しきつかったですが、本当に行って良かったと考えています。これから留学される方にも、これから進むための何かが起こることを願っています。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: 取得した単位の授業の内容が、本学で認定できるものと異なるため)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Approches de la biopolitique	生政治への導入
科目設置学部・研究科	文学部・人間科学科
履修期間	1 学期
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	E.BENCHIMOL
授業内容	ミシェル・フーコーのパノプティコン、ナチスドイツでの政治、デリダのホスピタリテ、現代の科学と社会の監視システムの関係などを通して、生政治を理解し、現代の人間のアイデンティティを理解していく。
試験・課題など	・レポート課題×2 ・中期試験 ・期末試験
感想を自由記入	明治大学の研究室でのゼミで、授業内容に近いことを勉強していたので、授業内容には抵抗なくついていくことができました。しかし、フランス語力が足りず、毎週配布される資料の理解に苦労しました。やはり内容の理解よりも、フランス語力が重要であると実感した授業であったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction aux fondamentaux	基礎の紹介
科目設置学部・研究科	文学部・文学科
履修期間	1 学期
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回
担当教授	F.LECERF
授業内容	世界を構成する要素をイメージとして捉え、そのイメージを理解していく。具体的には、絵画、映画、広告、建築、衣服、本などをプロジェクターに映しながら、それらが構成する世界のイメージを理解していく。
試験・課題など	・美術館・展覧会への訪問×2 →レポート課題×1 ・本読み課題×1 ・中期試験 ・期末試験
感想を自由記入	内容は自分がかもともとずっと興味を持っていたジャンルを超えて物事を理解していくものだったので、楽しく授業を受けることができました。とりわけ面白かったのは、生徒によるプレゼンでした。自分のフランス語力ではプレゼンできるレベルではなかったものの、様々な国からきた留学生のプレゼンなどもあり、イメージとしての世界の捉え方の多様性に触れられたことは大きな刺激になりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Esthétique 1	美学 1
科目設置学部・研究科	文学部・文学科
履修期間	1 学期
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回
担当教授	C.FLECHEUX
授業内容	美しさとは何かという内容を理解するために、最終試験のテーマである「美は自明の事柄かそれとも謎か」ということを理解していく。毎回の授業毎にプリントが配布されるが、授業前半では具体的に美しい物に関する資料。後半には美しさが現れる手続きに関する資料。後半には少し難しい発展的な内容の資料が配布された。
試験・課題など	・美術館訪問×1 ・レポート課題×1 ・中期試験 ・期末試験
感想を自由記入	授業内で配布される資料の内容が広範で、授業毎に配布されるテキスト同士の関係性を理解していくのが大変でした。中期試験では成績が単位取得に足りていなかったため、再提出を許可してもらうことができました。他の授業では再提出が許可されないものもありました。授業後半からは美術館へ行ったり、イタリアから建築の先生が来て授業を行ってくれたりしました。イタリア語、フランス語さらにアメリカからの留学生が多かったこともあり英語も使われ、留学ならでわの経験だなと感動しながら授業を受けていたことを覚えています。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Ecrits sur l'art	芸術に関する文章
科目設置学部・研究科	文学部・文学科
履修期間	2学期
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回
担当教授	F.DUMORA
授業内容	古代から現代に至るまでの芸術作品をそれについて書かれた文章と比較しながら理解していく。毎回、プリントが配布され、プロジェクトに移された作品を見ながら授業を行っていく。扱われる作品は土器・宗教画・絵画芸術など様々な内容であり、扱われるテキストも詩・小説の抜粋・哲学・心理学など様々なものがある。
試験・課題など	・中期試験 ・期末試験
感想を自由記入	かなりの量・範囲の資料を扱いはがらの授業であったので、ついていくことが困難でした。作品と資料の関係性を理解するだけでなく、そこから発展して自分なりの解釈をいなければいけないので、授業内容に関する知識だけでなく、そこに関連させることができる知識の幅も必要でした。日本のインターネットサイトで日本語の論文を検索して勉強していました。試験は中期・期末とあるはずだったのですが、先生の都合により中期試験がなくなり期末試験のみになりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Histoire de l'art	芸術史
科目設置学部・研究科	文学部・文学科
履修期間	2 学期
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 180 分が 1 回
担当教授	C.NAU
授業内容	いこのグラフィックという内容。ルネッサンスから現代までの絵画を、その絵画の中に描かれている要素に着目し、その要素がその時代やその時代の他の作品との関係の中でどのような意味を持っているのかを理解していくという授業。
試験・課題など	・中期試験 ・期末試験
感想を自由記入	授業内ではプリントが配られることは少なく、プロジェクターを使い多くの絵画作品を取り扱っていくという内容の授業でした。講義室の広さが狭く、知識がある学生と先生とが作品に描かれている要素の意味を話し合う場面が多くありました。この授業には留学生が少なかったこともあり、授業内容の説明は、毎回畳み掛けるような感じでした。試験は、当日プロジェクターに絵が映され、その絵に描かれている要素について小論文を書くというものでした。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2015年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2016年 1月～3月	
4月～7月	・TCF の勉強
8月～9月	・TCF の勉強
10月～12月	・明治大学協定留学学内選考応募
2017年 1月～3月	・明治大学協定留学学内選考通過の知らせ
4月～7月	・留学先大学への寮の申し込み ・航空券の手配 ・フランス大使館でのビザ申請
8月～9月	・移民局へのビザ発行のための手紙送付 ・LCL での銀行口座開設 ・留学生用フランス語授業 ・留学先大学での 1 学期授業開始
10月～12月	・移民局での滞在ビザの受け取り ・Imagin R の申請・受け取り

留学体験記

留学しようと決めた理由	もともと高校生の時に仲の良かった友達がアメリカに留学をし、留学に興味を持ちました。大学に入ってから高校時代の他の友達が留学したり、大学のクラスに日本へ来た留学生がいたり、留学への興味が高まりました。そのような子達が海外へ身を置くことで価値観や視点が変わることを幾度も話して聞かせてくれたのですが、経験のない私には理解ができませんでした。学部 3 年生の時に卒業後の進路を考え、価値観や視点を広げた状態で将来を考えたいと思い、留学することを決意しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	言葉や肌の色・体格などが違う、私たちが外人だと思ってしまう人々への免疫をつけておくことだと思います。1 年では母語以外の言葉で自分の考えや、感情を相手に正しく伝えるのは困難でした。そのせいもあり、留学の前半期間は、外人とコミュニケーションをするという意識から毎回緊張しました。後半からは人と人の関わり合いだということがわかり、身振りや表情を交えることで相手を理解し自分を伝えることができたと思います。もちろん語学力の向上は必要でしたが、意識の変化がコミュニケーションでは重要であったと思います。留学前から日本にいる留学生などともっと関わっておけば良かったと思っています。
この留学先を選んだ理由	建築学科に在籍しているのですが、留学を決めた時の学年が3年時ということもあり、卒業論文のテーマが自分の中で決まっていた。研究内容を掘り下げるためにはフランス語の勉強が必要であったこと、そして、選択した大学にはその研究内容に関する授業があることが一つの理由でした。また、フランス周辺に研究に関する建築が多く存在していたことも理由です。二つ目の理由は、建築学科に入る前から服に興味を持っており、卒業後の進路としても考えていたので、服の本場であるフランスを視野に入れることでした。
大学・学生の雰囲気	大学は比較的新しい大学なので入学登録や授業登録の手続きがスムーズでした。学生保険の登録から学生証の配布まで、登録センターにて流れ作業で短時間の間に行われるという感じです。教室は少人数の講義室から大講義室まで日本の大学と同じような広さでした。図書館は学生証がなくても入ることができ、コピーが使えるので良く利用していました。フランスはコピーは印刷屋さんに行かないとできないので便利でした。学生は基本的にはみんな授業を聞いていて、手を上げて質問するのが当たり前という感じでした。文学部だったので授業では女の子が多かったです。大学の広場で座ってくつろいでいる人が多かったり、スケボーをしている人がいたり、校内は自由な印象を受けました。
寮の雰囲気	寮は GROUS という大学が紹介してくれた学生寮だったのですが、建物から部屋、設備まで全て綺麗で困ることはありませんでした。寮を管理している人は大家さんが一人とアルバイトが 2 人という感じで、常に受付室にいるので何かあればすぐに聞きに行ることができます。寮には大きな部屋があり、たまにそこで学生同士の交流会が開かれました。フランスの他の県から来た人がいたり、他の国から来た人がいたり、また、日本の大学から来た人も何人かいたり、かなり交友の幅が広いです。深夜に大音量で音楽をかける人がたまにいたのでそれは困りました。
交友関係	パリ・デイドロ大学には日本語学科があり、日本語学科の学生と日本人学生の交流会が毎週開かれています。留学開始直後は、そこに通い友達を作っていました。アニメが好きで日本語を習っている子や、その子の知り合いの高校生とも友達になれたり、どんどん交友関係が広がっていきました。近くにイナルコがあるので、そこからパリ・デイドロの日仏交流に来ている子とも友達になることができます。また、授業で知り合った子にフランス語を教えてもらえることになり、その子とは良く図書館に一緒に行っていました。美術の授業で知り合った子だったので絵が上手く、パリ・デイドロには美大に受かるまでの仮で入っていると聞いていました。そういうことができるのも、授業料が安いフランスならではの思い出でした。
困ったこと、大変だったこと	言葉がままならないので、生活・授業・各種手続きと当たり前のことが困難に思えるという感じでした。一番困ったのは CAF という住宅補助金の申請でした。入寮時に CAF に関する資料をもらっていたのですが、その情報を入力してもなぜか申請できず、何度もメールで問い合わせたのですがダメでした。寮の他の子達は、同じ方法で CAF の申請ができていたので、寮からもらった資料に問題はなかったと思います。パソコンの問題だと思い MAC を使っていたので Windows の使えるパソコンで申請してみてもダメでした。家賃の 3 分の 1 の金額をもらうことができるはずだったので悔いています。

学習内容・勉強について	文学部の中にある美学系の授業と、人文系の授業を履修していました。日本では建築の勉強をしていたのですが、建築学科では学部4年時にコース選択ができ、私は意匠というデザインなどに関するコースを選択していたので、授業内容に関する知識はある程度ある状態でした。授業によりまちまちでしたが、プロジェクターに画像や映像を写して行う授業、美術館や展覧会を訪れる授業など、私がついた授業は言葉だけでない授業が多かったので、内容理解はできるという感じでした。自宅では、インターネットを使って内容に関する資料を調べたりしながら学習していました。フランスではパソコンでノートをとる子が多かったので、そのデータをもらったりしてもしました。
課題・試験について	課題は授業内に平均して2回出されるという感じで、自宅で仕上げるので大丈夫だったのですが、やはり、授業内容についていくのが困難でした。同じ授業の学部1・2年のものをもってみたのですが、学部2年生のものはかなり専門的になり、もともと内容が把握できている人でなければ難しいのではないかと感じました。試験に関しては、どの授業も中期・期末と一回づつあるという感じでした。試験の点数が単位取得に足りていないときは、再提出を許可してくれる授業もあったのですが、許可が出ない授業もありました。文学部は全て小論文形式の試験だったので、あらかじめ一度自分で文章を作って置き、暗記して試験に臨むようにしていました。
大学外の活動について	留学の目的の一つに研究内容に関する建築を訪れることがありました。フランス周辺のヨーロッパに多く建っていたので、夜行バスを乗り継いで、ドイツ・オーストリア・イタリアなどを訪れました。夜行バスは基本的に5,000円くらいと安価で、宿をとる必要もないのでかなり便利でした。各国の田舎や、山岳地帯を訪れることができ、また、バスの中でもコミュニケーションをとったりと、日本で抱いていたイメージとはまた違う場所で英語やフランス語を使うことができたのはよかったですと思います。
留学を志す人へ	留学はお金もかかるので、留学先での生活は何かを掴まなければとかなりプレッシャーがかかります。私の場合は、留学条件ギリギリでの留学だったので、なかなか語学力が伸びずそれがさらにプレッシャーになりました。しかし、そのプレッシャーのおかげで得られたことも多かったです。とにかく、気になる事を行って、失敗して、留学中はそれが何になったのかわからなくても、帰国後に次へ進む糧にするというのでもいいと思います。今はインターネットがあるので、ついそれに頼って部屋にこもりがちになる事もありましたが、そのことも人と直接関わることの大切さを学ぶ良い機会になりました。自分を信じて留学に取り組んでください。応援しています。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	起床	友人とのフランス語勉強	起床	起床	起床
	授業	授業	授業	〃	自習	美術館巡り・ショッピングなど	部屋でリラックス
午後	自習	自習	自習	自由	授業	〃	〃
	自習	自習	授業	自由	自由	〃	〃
夕刻	自習	自習	授業	自習	日仏交流	〃	自習
夜	自習	自習	自習	自習	日仏交流	自習	自習